

サツマイモ栽培（さいばい）の基礎知識（きそちしき）

と き：平成 26 年 12 月 3 日（水）

午後 1 時 30 分～

ところ：松山小学校体育館

1 サツマイモのルーツは

○サツマイモの生まれは熱帯アメリカです。

（南米大陸のペルーと中米のメキシコの 2 説があり、約 1 万年前の遺跡から炭化したサツマイモが見つかっています。）

2 サツマイモの来た道は（3 つのルート）

○アメリカ大陸からヨーロッパ⇒アフリカ⇒インド⇒東南アジア⇒中国⇒日本に伝わる。

○メキシコから太平洋を渡ってフィリピンに。

○古代ポリネシア人がサツマイモをハワイやニュージーランドに広めた。

3 日本には、17 世紀の初頭、中国から

約 300 年前に中国（明）から沖縄本土に最初に伝えられ、その後、鹿児島本土や長崎に拡がり徐々に北上し、18 世紀中ごろ、青木昆陽の時代に関東地方に伝わりました。

サツマイモは薩摩の国（鹿児島）から来たイモという意味で、長崎などでは、唐芋（カライモ＝中国の唐）と呼ばれています。また、甘藷（カンショ）＝中国語とも言われている。

4 サツマイモの魅力

○イネが栽培できる、新潟から茨城以南で、暖かい地方が中心。北海道の札幌付近でも家庭栽培ができます。

○ツル性で地面をはう作物で台風の影響を受けなく、病害虫が少なく、連作障害が起きにくい。サツマイモには、ビタミン C、A、E、も多く、カルシウムやマグネシウムなどミネラルが豊富で、穀類と野菜の両方の機能を備えた健康的な食物です。

5 サツマイモの生育特性と栽培ポイントは

○サツマイモの花は通常は開花しないが、干ばつ年にまれに自然開花することもあります。

アサガオに似てピンクか薄紫の花が咲き結実しないため、種子ができないことが多い。

○栽培方法は、種イモから伸びたツルを切り取り、畑に植えます。その際、太陽が当たる側に沿ってツルを 3 枚葉程度（根が出ている）のところまで土の中に植えます。

○植え付け後、2 週間の地温度が決めます。イモが付きやすい下部の 2～3 節を必ず土中にうめこむこと。節部から発根し、水分の吸収を始め 4～5 日後葉が展開し、10 日程で再成長を開始します。（温度が 18 度以上で発根し、最適地温は 30 度前後です。）

○植え付け後、1 カ月余りで塊根をつくります。

○梅雨時期に根を老化させないためこの時期は低温・過湿をさけるためマルチ栽培は有効です。

○本格的に肥大・成熟するのは、7 月から 10 月です。本格的な肥大期からは、晴天が続き、乾燥気味になったほうがデンプンがよく蓄積され、ほくほくしたイモになります。

水分よりも細胞分裂して肥大する塊根は、水分よりも、呼吸に使う酸素が必要なため、秋雨などで長雨が続き、多湿になり酸素不足になったり、チッソの肥料効果が高まり、イモの肥大、デンプン蓄積が悪くなります。

- そのため、排水のよい畑が重要なのは、このためです。
- サツマイモは植え付け後、ほとんど放任栽培で、天候に任せる作物ですが、草取り時に、中耕すると土が柔らかくなり通気性が良くなり、イモの肥大が促進されます。
- 降雨で畝がくずれるとイモが肥大化する場所がなくなり、イモに光が当たると肥大化を停止しまいます。そのため、1～2回程度畝のあいだの土を耕し、土寄せをします。
- サツマイモは、元肥中心で追肥はしないことが多い。
- 以前は、夏から秋ぐちにツル先端部を持ち上げてひっくり返し、節から出た根を切る「ツル返し」をしていましたが、現在の品種は、節の根にイモになることはないため「ツル返し」をしても無意味です。

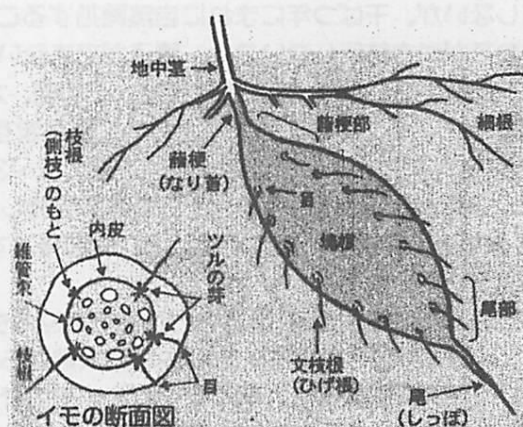
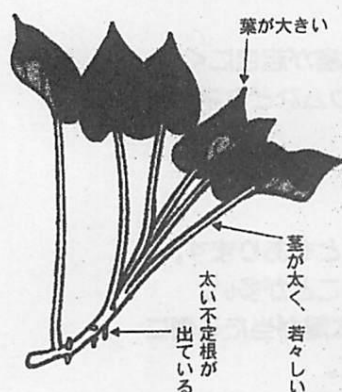
サツマイモのアラカルト（知っていると思える知識）

鑑賞用として

種イモをそのままか、半分程度に切って、コップや瓶・皿に入れ、イモの尾部を水にさしておけば種イモの養分で芽が出て、葉色の美しい観賞用として楽しむことができます。一度、ためして見ましょう。

サツマイモのくきを煮て食べる

サツマイモのツルの部分（茎と葉の中間部分）は、葉を落し、すじをとってからあぶらげと一緒に醤油で煮るとおいしいおかずができます。大人にとっては、なつかしい味で食が進みます。



ツルの芽もできているサツマイモの塊根（イモ）

